

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 彩SaiKidsあさひ

公表日 令和7年 5 月 1 日

利用児童数

9

回収数

7

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	1				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	5			2	職員が全員で何人いているかの把握ができていない	職員の人数を記載したお便りを配らせていただきます
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6			1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6	1				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6			1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5			2		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6			1		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5			2		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5			2		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2		2	3		交流や、活動が可能かどうかの検討をいたします。医療的ケアの多い子が多いため体調にも配慮いたします
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6	1				
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5	1		1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2		2	3		まずは事業所として、研修会や情報を得るようにしていきます
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	6	1				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5		1	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6	1				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	1	3	2		施設としてそのような場を設けられるかを検討します
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4		1	2		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6		1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6			1	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3			4	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2			5	避難訓練や消火訓練は4月と10月に行っており、活動自体もSNSで発信させていただいております
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5			2	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4			3	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	5	1		1	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5	1		1	
	29	事業所の支援に満足していますか。	6	1			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
彩SaiKidsあさひ		令和7 年 5 月 1 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		スペースは広いため、その日の子どもの人数によって使い方を変えている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		概ね適切ではあるが、送迎に職員がでるときなど子どもの人数に対し大人の人数が少ないときがある。 ⇒職員の補充、ヘルプ対応によって改善をおこなう
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		体調に応じて静養室を使用することができる環境になっている	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		問題点に対し、全員で話し合う場を定期的に設けている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		都度面談する場を設けており、かつ最低でも3か月に1回は必ず面談を行うことをルール化している	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		HPで公表している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		その日出勤のスタッフ全員で話し合いをする日等がある	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児発管の声かけのもとその日出勤者全員で考える機会がある	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		一日に2回 9:00と14:00にミーティングを行う時間を設けている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		すぐに記録がかけよう紙ベースのものと、情報共有、情報保管ができるようアプリを使っている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		今後の課題ではあるが、他の保育園、幼稚園との意見交換の場は必要である。SNS等で交流会の開催等を積極的に行う
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		現状の発信はないが、利用者家族全体に発信できるツールはあるため情報提供を行えるものがあれば検討する
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		二一ス聞き取りやモニタリングにて本人や家族の意向を確認している	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		保護者さまからの要望があれば検討する
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域のお祭り等に参加することは行っているが、自施設での開催は行っていない。重心の子どもたちの安全を確保を第1に考え 地域住民の方を招待できる企画を検討する
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年間スケジュールをたて、実際に避難経路を 通って毎年避難場所へ行く訓練を行っている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		インシデント報告書を上げるように徹底している	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		eラーニングでの研修とストレスチェッカーの 受講を促している	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	彩SaiKidsあさひ		
○保護者評価実施期間	2025年 3月16日 ～ 2025年 4月 15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年 3月 16日 ～ 2025年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフ全体で子どものことを考えたり、話し合ったりする時間を多く設けることができている。 より個別に支援していくことができる環境にある。	個別支援計画のカンファレンス等は出勤者全員で行うことをルールとし、毎日9時と14時にミーティングをする時間を設けている。	支援計画の内容をその日利用する子どもたち分を毎回確認できる仕組みにし、日々の支援の質をあげていくようにする。
2	看護師の人数が多く、毎日3人以上の看護師を配置している。	重心型の施設のため医療的ケアには特に注意して行っている。 医療的ケア児に関しては、看護師の担当制を採用しておりその日の状態、状況等細かく保護者にお伝えすることができる。	とはいっても看護師を採用し続け、配置し続けることは容易なことではない。職員の離職を防止できるよう働く環境を整え、 今後もさらに医療的ケアを充実できるように努める。
3	施設が広いため、子どもたちの状態にあわせた支援をすることができる。	広めの静養室を設けているため、体調不良の子どもがいる場合には個別に対応することが可能。その際看護師をひとり専属でつけ、安心と安全も確保することができる。	子どもの利用人数が多くなっているため、広さを活かし、無駄なくスペースを使えるよう工夫していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎時間がかぶる等により一時的に職員の人数が少なくなる時間帯がある。	子どもたちのお迎え時間が重なることが多く、微妙な調整不足がみられる。	一日のタイムスケジュールの見直し、また保護者や学校との連携を図り、送迎時間の調整を行う。
2	地域との連携がまだまだ薄い。	医療的ケアの子どもが多く、処置の時間が決まっているので外出等が難しい現状がある。	タイムスケジュールや、処置がしやすい環境を考慮し、地域の行事毎等に積極的に参加していきたい。
3			